

今月の推薦句

山田真砂年選

藁の火の贅をつくして初鯉	大坪正美
柚子忌やささはさは揺るる今年竹	飛田小馬々
霧や何処にも行かぬ旅靴	上田信隆
シート干す母の背伸びや朱夏の風	伊藤 翠
ここよりは私有地竹の皮を脱ぐ	張本弘子
マスクした写真ばかりやさみだれる	牧園 賀
五枚より遺影選びぬ沙羅の花	林 恵美子
枇杷すすり柚子師の句の口を衝く	浜田優子
吹かれ来しノートの上の子かまきり	細井恵子
駒が嶺の水音の透けし谷若葉	丸山時子
余生にはまだ余白あり半夏生草	関口敦子
山城を目指す歩幅や著莪の花	矢代靖子
父の日や銃を手取ることもなく	大坪正美
麦秋のまん真ん中に戦あり	小見戸 実
万緑や絵本のやうな椎古木	飛田小馬々
秋深し鉛筆が好き消えるから	今井 基
直角にくちなは曲がる怖さかな	滝代文平
万緑や風土記の里のカレー蕎麦	中村晃也
万緑や延命水に大柄杓	相馬ゆう子
光跡は傷にも見えて流れ星	中村かりん
噴水の高さ変はれば子の声も	林 恵美子
麦畑風の曲がりし跡ありぬ	池田角之助
天城路に滝の音あり空があり	石関二三子
春愁や背のスイッチを押ししてくれ	戸上晶子
子雀の囀るそこは鬼瓦	大和田美和子
芍薬の蕾の蜜のキラキラと	瀧本 萌